

本 会 会 報

学会だより

◇ 令和3年度 第2回運営委員会議事録

日時：2021年8月22日（日）14:00～17:30

場所：オンライン開催

出席者：大澤良，加藤鎌司，中園幹生，吉岡洋輔，西田英隆，井澤毅，岩田洋佳，津釜大侑，畠山勝徳，小野寺康之，山根京子，横井修司，草場信，久保貴彦，加賀秋人，辻寛之，那須田周平，久保山勉，川浦香奈子，風間智彦，門田有希【21名】

欠席：高橋秀和【1名】

各運営委員からの活動経過報告の後，以下の事項について審議された。

- ①代議員会に関する定款の変更（総務）
- ②委員会及び事務局に関する定款の変更（総務）
- ③委員会及び事務局に関する内規の変更（総務）
- ④新 Web サイトのドメインについて（総務）
- ⑤クレジットカード決済システム利用料について（集会）
- ⑥参加登録期間の延長について（集会）
- ⑦年会費のクレジットカード決済について（集会）
- ⑧新編集委員の推薦（英文誌）

◇ 第12回代議員会議事録

日時：2021年9月18日（土）14:00～17:00

場所：オンライン開催

（理事・運営委員・監事・各種委員）

出席者：大澤良，加藤鎌司，中園幹生*，吉岡洋輔，西田英隆，井澤毅，岩田洋佳，津釜大輔，畠山勝徳*，小野寺康之，高橋秀和*，山根京子*，横井修司*，久保貴彦*，久保山勉，川浦香奈子，加賀秋人，辻寛之，那須田周平，風間智彦，門田有希，久保友彦，富田因則*，経塚淳子【24名】

欠席者：草場信*【1名】

（代議員）

出席：貴島祐治，金澤章，加藤清明，高牟禮逸朗，北柴大泰，畠山勝徳*，赤木宏守，笹沼恒男，高橋秀和*，石本政男，宇賀優作，江面浩，江花薫子，吉田均，米丸淳一，福岡修一，新倉聡，房相佑，佐藤正紀，木下哲，高野哲夫，堤伸浩，矢野健太郎，三浦孝太郎，山根京子*，掛田克行，中園幹生*，富田因則*，半田裕一，横井修司*，佐藤和広，田中裕之，久保貴彦*，藤田大輔，緒方大輔【35名】

委任状（議決権行使）：井藤純，築山拓司【2名】

欠席：清水顕史，草場信*，松田靖【3名】

〈* 役員・委員と代議員を兼任〉

議長：代表理事（大澤良）

議事録：運営委員（西田英隆）

出席者数は代議員会開催の定足数（過半数）を満たしていた。

1. 報告事項

（ア）運営委員会報告（各運営委員）

総務：会員数，冊子発行部数，Web サイト更新回数，メールニュース配信回数，シニア会費制度利用申請，契約（第140回講演会業務委託），共催・協賛・後援，会議開催予定，Web サイトのリニューアル，日本育種学会賞・奨励賞の賞状・副賞の授与

科研費：国際情報発信強化（BS 科研費），研究成果公開発表（シンポ科研）

会計：2021年度中間決算報告

編集（英文誌）：編集状況，特集号の進捗と予定，企画総説，編集委員の退任，日本育種学会論文賞の選考，J-STAGE・2021年度ジャーナルコンサルティング，BS 掲載料

編集（和文誌）：編集状況，育種学研究のアーカイブ化，その他検討事項

集会：2021年秋季大会，今後の大会開催予定

農学会：日本農学会シンポジウム，農学賞候補者推薦，日本農学会総会・日本農学賞選考会，日本農学会シンポジウムテーマ

記者発表：第140回講演会記者発表，記者発表対象課題，記者発表希望演題数，記者発表における情報公開日の設定

2. 審議事項

（ア）通常決議議案：令和3年日本育種学会賞の選考について

学会賞等選考委員長より，以下の3課題の日本育種学会賞候補の推薦理由について説明があった。

（1）佐々英徳（千葉大学大学院園芸学研究院）「バラ科果樹における自家不和合性の分子機構に関する研究」

（2）農研機構・作物研究部門「難裂莢性ダイズ品種群」育成グループ*（代表者：羽鹿牧太）「難裂莢性ダイズ品種群の育成」

*当初の受賞候補者名は「国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 作物研究部門 大豆育種グループ」であったが，後日，受賞者の希望により，学会賞選考委員会および代議員会における承認を受けて，受賞者名を上記のものに変更した

（3）【受賞候補者】愛知県農業総合試験場小麦品種「きぬあかり」育成グループ（代表者：吉田朋史）「多収・良質・良食味で耐湿性に優れた画期的な日本用小麦品

種「きぬあかり」の育成」

投票の結果、代議員出席者の3分の2以上の賛成票を得て3件とも承認された。

(イ) 通常決議議案：令和3年日本育種学会奨励賞の選考について

学会賞等選考委員長より以下の2課題の日本育種学会奨励賞候補の推薦理由について説明があった。

(1) 永井啓祐（名古屋大学生物機能開発利用研究センター）「イネ節間伸長の分子機構解明」

(2) 石井孝佳（鳥取大学乾燥地研究センター）「雑種胚細胞で起こる染色体脱落の理解と育種的利用」

投票の結果、代議員出席者の3分の2以上の賛成票を得て2件とも承認された。

(ウ) 通常決議議案：第18回（令和2年）日本育種学会論文賞の選考について

学会賞等選考委員長より以下の3報の日本育種学会論文賞候補の推薦理由について説明があった。

(1) gw2 mutation increases grain width and culm thickness in rice (*Oryza sativa* L.)

掲載巻（号）・頁：Breeding Science 70(4): 456–461

著者：Kohei Yamaguchi, Tatsuya Yamamoto, Shuhei Segami, Miho Horikawa, Genki Chaya, Hidemi Kitano, Yukimoto Iwasaki, Kotaro Miura

(2) Mikan Genome Database (MiGD): integrated database of genome annotation, genomic diversity, and CAPS marker information for mandarin molecular breeding

掲載巻（号）・頁：Breeding Science 70(2): 200–211

著者：Yoshihiro Kawahara, Tomoko Endo, Mitsuo Omura, Yumiko Teramoto, Takeshi Itoh, Hiroshi Fujii, Takehiko Shimada

(3) Simulation-based optimization of genomic selection scheme for accelerating genetic gain while preventing inbreeding depression in onion breeding

掲載巻（号）・頁：Breeding Science 70(5): 594–604

著者：Daisuke Sekine, Shiori Yabe

投票の結果、代議員出席者の3分の2以上の賛成票を得て3件とも承認された。

(エ) 通常決議議案：新編集委員の推薦（編集（英文誌））

投票による審議の結果、代議員出席者から多数の賛成を得て、下記6名の新編集委員の就任が承認された。

Benjamin Ewa Ubi, Masahiro Kishii, Sun-Hee Woo, Yerlan Turuspekov, 西原昌宏, 半田裕一（敬称略）

(オ) 特別決議議案：代議員会に関する定款の変更（総務）

第3章第15条第3項では、代議員会召集の通知を書面で行うこととし、電磁的方法で行う場合には代議員の承諾が必要と定めている。実情を踏まえ、電磁的方法の場合でも代議員の承諾を不要にする変更が提案された。

投票による審議の結果、代議員出席者の3分の2以上の賛成票を得て承認された。

(カ) 特別決議議案：委員会及び事務局に関する定款の変更（総務）

第8章第43条第2項により委員会の委員は会員と定められているが、編集委員会の実情を踏まえ、会員のみ限定する部分の削除が提案された。

投票による審議の結果、代議員出席者から3分の2以上の賛成票を得て承認された。

(キ) 通常決議議案：委員会及び事務局に関する内規の変更（総務）

審議事項（カ）と関連し、内規C（役員その他の人事に関する事項）の第13項の変更（学会の諸委員および学会推薦の諸役を会員に限定し、編集委員のみ例外とすることを明記し、委員のリストにLMO・ABS委員を追記すること）が提案された。

投票による審議の結果、承認された。

(ク) 通常決議議案：新ウェブサイトドメインについて（総務）

新ウェブサイトドメインの第一候補を「jsbreeding.jp」とし、取得を進めることが提案され、投票による審議の結果、承認された。

3. その他

(ア) 関連報告

①学会賞等選考委員会

日本農学賞の新規推薦が無かったことが報告された。

②シンポジウム委員会

第140回講演会でシンポジウム1件、ワークショップ3件が開催されることが報告された。関連して、シンポジウムにおける非会員の演者に謝金を支払うこと、ワークショップにおけるウェビナーアドオン費用の一部を委員会の子算から負担することが報告された。

③男女共同参画推進委員会

第140回講演会において、講演会参加者と全ての学会員を対象とするランチタイムセミナーが開催されることが報告された。また、セミナー参加とアンケート回答について協力の要請があった。

④日本学術会議育種分科会委員

次期マスタープランの検討を本会と緊密に連携して進めるために育種学将来構想委員会（仮称）を設置し、本会の会員6名（磯部祥子氏、横井修司氏、最相大輔氏、江花薫子氏、有泉亨氏、有村慎一氏）に参画を要請し、快諾を得たとの報告があった。また、カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関して、日本学術会議は異なる学術分野が連携して総合的・俯瞰的に検討する方針であることが報告された。

⑤公益財団法人農学会農学教育推進委員会委員

農学系一般分野及び関連のエンジニアリング分野におけるプログラム審査について、昨年度からの継続審査6件をオンラインで実施し、ほぼ完了したことが報告された。また、令和2年度の技術士第二次試験の合格者は過去最多の379名、このうち農業部門は4名、生物工学部門は0名であったことが報告された。

(イ) その他

①第140回講演会優秀発表賞の選考について

総務から優秀発表賞の投票依頼があった。

②育種学研究のアーカイブ化

育種学雑誌および育種学最近の進歩のアーカイブ化に関して質問があり、今後、関連する委員で検討することになった。

③Q1ジャーナルのリスト

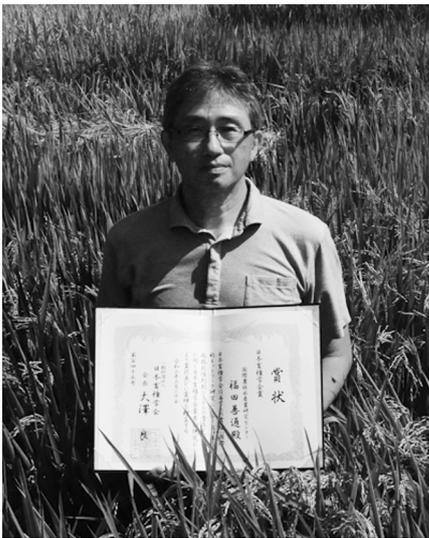
Breeding Science誌がSJRの「Agronomy and Crop Science」および「Plant Science」のカテゴリーにおいてQ1ジャーナルのリストに掲載されているとの報告があった。

◇ 令和3年日本育種学会賞・奨励賞賞状および副賞の授与について

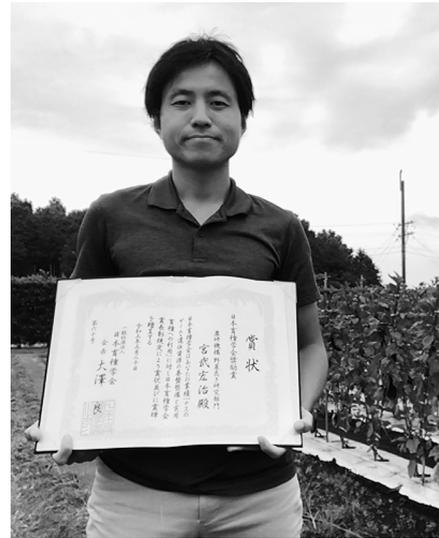
新型コロナウイルス感染症の影響により令和3年日本



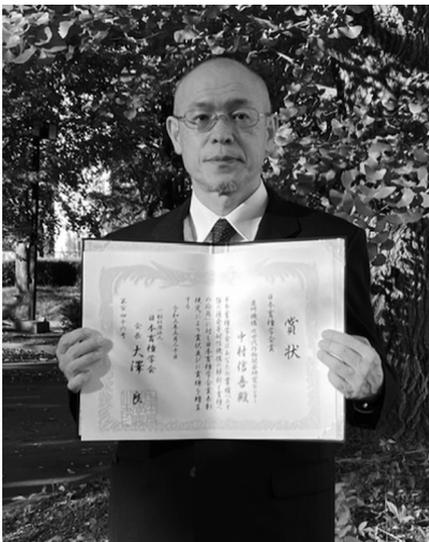
日本育種学会賞（第147号）山形農総研水田農業試験場水稲品種『つや姫』育成グループ（代表者：中場勝氏）



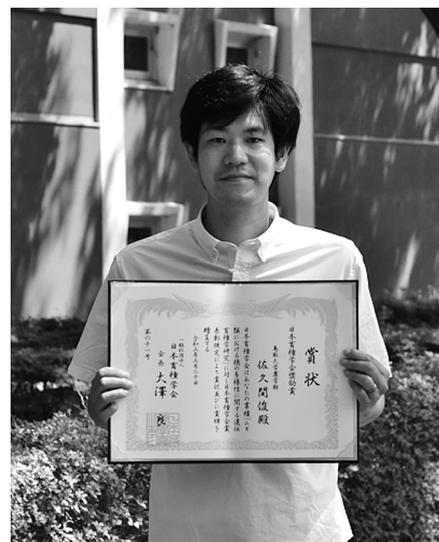
日本育種学会賞（第145号）福田善通氏



日本育種学会奨励賞（第60号）宮武宏治氏



日本育種学会賞（第146号）中村信吾氏



日本育種学会奨励賞（第61号）佐久間俊氏



日本育種学会奨励賞（第 62 号）山形悦透氏

育種学会賞・奨励賞の授与式が中止になったため、受賞者には賞状および副賞を郵送でお送りしました。

◇ 第 140 回講演会選定課題記者発表報告

発表日時：令和 3 年 9 月 21 日（火）13:00～14:30

発表場所：オンライン開催

出席者：中園幹生（幹事長）、津釜大侑（記者発表担当運営委員）、山本英司（課題 1）、松永啓（課題 1）、磯部祥子（課題 1）、中里一星（課題 2）、有村慎一（課題 2）、鐘ヶ江弘美（課題 3）、米丸淳一（課題 3）、遠藤亮太（課題 4）、近野洋（課題 4）、柿崎智博（課題 4）、高田渉（課題 4）

参加報道機関：日刊工業新聞社、化学工業日報社、日経 BP、日本農業新聞社、科学新聞社、NHK（報道局科学文化部）の計 6 社（7 名）

記者発表課題：

(1) 講演番号 101「全ゲノム配列解析が明らかにする国内大玉トマト現代育種の軌跡」山本英司¹、松永啓²、大山曉男²、布目司²、白澤健太³、平川英樹³、磯部祥子³（1. 明治大・院農、2. 農研機構・野菜花き部門、3. かずさ DNA 研）

(2) 講演番号 119「植物オルガネラゲノムの標的一塩基置換」中里一星¹、奥野未来^{2,3}、肥塚千恵⁴、常富紀子⁴、田村美子¹、伊藤武彦²、肥塚信也⁴、高梨秀樹¹、堤伸浩¹、有村慎一¹（1. 東大・院農生、2. 東工大・生命理工学院、3. 久留米大・医、4. 玉川大・農）

(3) 講演番号 121「国内で育成されたイネ 500 系統以上のゲノムビッグデータ解析」鐘ヶ江弘美¹、松下景^{1,2}、林武司¹、後藤明俊^{1,2}、菊井玄一郎¹、矢野昌裕¹、米丸淳一^{1,2}（1. 農研機構・農業情報研究センター、2. 農研機構・次世代作物開発研究センター）

(4) 講演番号 212「ダイコン GRS1 の機能欠損を利用し

た属間雑種のグルコラファニン含量を飛躍的に向上させる育種法の開発」遠藤亮太¹、近野洋¹、板橋悦子²、川崎光代²、小原隆由²、柿崎智博²（1. カゴメ株式会社、2. 農研機構・野花研）

記者発表の報告：

令和 3 年 9 月 23 日（木）、24 日（金）、25 日（土）にオンラインで開催される日本育種学会第 140 回講演会の講演課題（計 139 課題）の中から、運営委員会で選定された上記 4 課題について、記者会見を実施した。幹事長が諸注意を述べた後、それぞれの課題の発表者が資料を用いて説明し、質疑応答を行った。記者会見後、講演番号 101 に関する記事が日本農業新聞（9/23）および科学新聞（10/15）に掲載された。また、講演番号 119 に関する記事が日刊工業新聞（9/22）および日経バイオテック（10/6）に掲載された。講演番号 101 の課題については日本種苗新聞からも取材があり、同紙にも掲載される予定である（掲載日は未定）。

◇ 第 140 回講演会日本育種学会優秀発表賞報告

2021 年日本育種学会秋季大会（第 140 回講演会）における日本育種学会優秀発表賞が下記の 6 演題に決定された。

講演番号 119：植物オルガネラゲノムの標的一塩基置換
☆中里一星¹、奥野未来^{2,3}、肥塚千恵⁴、常富紀子⁴、田村美子¹、伊藤武彦²、肥塚信也⁴、高梨秀樹¹、堤伸浩¹、有村慎一¹（1. 東大・院農生、2. 東工大・生命理工学院、3. 久留米大・医、4. 玉川大・農）

講演番号 407：イネにおける成長相転換とジベレリン合成の時空間的解析（1）

☆新美陽子¹、永井啓祐¹、保浦徳昇¹、水多陽子²、竹林裕美子³、小嶋美紀子³、榊原均⁴、島谷善平⁵、寺田理枝⁶、辻寛之⁷、声苺基行¹（1. 名古屋大学・生物機能開発利用研究センター、2. 名古屋大学高等研究院・トランスフォーマティブ生命分子研究所、3. 理化学研究所・環境資源科学研究センター、4. 名古屋大学大学院・生命農学研究科、5. 神戸大学大学院・科学技術イノベーション研究科、6. 名城大学・農学部、7. 横浜国立大学・木原生物学研究所）

講演番号 204：名古屋大学附属農場の無施肥圃場を用いた日本イネ栽培品種 120 系統の解析

☆長谷川昂平¹、森拓也¹、天野真宏¹、高橋宏和¹、西内俊策¹、村瀬潤¹、松岡信²、中園幹生¹（1. 名古屋大学生命農学研究科、2. 名古屋大学生物機能開発利用研究センター）

講演番号 217：系譜とマーカー情報に基づく育種過程で生じた起源ハプロタイプの偏りの推定：リンゴ品種群への適用

☆望月秀斗¹、南川舞¹、國久美由紀²、野下浩司^{3,4}、森谷茂樹²、阿部和幸²、林武司⁵、片寄裕一⁶、山本俊哉²、

岩田洋佳¹ (1. 東京大・院農学生命科学, 2. 農研機構・果樹茶部門, 3. 九州大・院理, 4. 九州大・植物フロンティア研究センター, 5. 農研機構・農情研, 6. 農研機構・作物開発センター)

講演番号 313: DNA の 1 塩基差を迅速・簡便に判別できる PRIMA (Probe-induced heteroduplex mobility assay) 法の開発

☆角井宏行^{1,2}, 山崎美紗子¹, 清水健太郎^{1,2} (1. チューリヒ大・進化生物環境研, 2. 横浜市大・木原生研)

講演番号 410: イネの穂形態を制御する 3 つの遺伝子の組み合わせが穂構造および収量関連形質に及ぼす影響

☆縣歩美^{1,2}, 太田自由¹, 佐藤豊², 榊原均^{1,3}, 芦荊基行⁴, 北野英己⁴, 保浦徳昇⁴ (1. 名大院生命農学, 2. 国立遺伝学研究所, 3. 理化学研究所, 4. 名大生物機能開発利用研究センター)

研究助成公募等の案内

◇ 公益財団法人タカノ農芸化学研究助成財団 2022 年度研究助成公募のお知らせ

2022 年度研究助成対象者募集要領

本財団は、農学、特に農芸化学（生物資源等）に関する学術研究を助成し、もって学術研究の発展に寄与することを目的とし設立されました。本年度も、農芸化学等に関する研究を行っている大学等の研究機関の研究者に対し、研究助成金を交付いたします。特に、若手研究者への助成の枠を設け、今後の当該分野の研究促進に役立ちたいと考えています。2022 年度助成対象者は次の要領で募集いたします。

1. 研究分野：(A) 豆類や穀類の生産技術（栽培、育種、植物栄養、根圏微生物等）に関する研究、(B) 豆類や穀類、並びにそれらの加工品の食品機能（栄養機能、嗜好機能、生体調節機能等）に関する研究、(C) 豆類や穀類の加工、保蔵、流通技術に関する研究、並びにそれらの発酵に関連する微生物や酵素の探索、特性、利用に関する研究

2. 研究助成対象者：(1) 国内の大学、短大の研究者（大学院生も含む）、(2) 国公立並びに国立研究開発法人等の研究機関の研究者、(3) その他本財団の理事会において適当と認められた研究者

3. 助成金額：(1) 一般部門（年齢制限なし）1 件当たり 100 万円を 7 件程度、(2) 若手部門（40 歳未満）1 件当たり 50 万円を 6 件程度 ※若手部門は、昭和 57 年 4 月 1 日以降生まれの方

4. 交付時期：2022 年 5 月予定

5. 申請手続き方法：財団所定の申請書に必要事項を記入の上、2022 年 1 月 15 日から 3 月 10 日（必着）までに財団理事長宛てに郵送して下さい。尚、申請書用紙は、タカノフーズ(株)ホームページ (<http://www.takanofoods.co.jp/>) 内の【タカノ財団】からダウンロードできます。または、E-mail にお問合せいただけましたら、書類を添付して返信いたします。

6. 申請書請求先及び送付先：〒311-3411 茨城県小美玉市野田 1542, (公財) タカノ農芸化学研究助成財団, TEL : 0299-58-4363 FAX : 0299-58-3847, E-mail : tazaidan@takanofoods.co.jp

7. その他：同一研究課題で、他の団体等へ応募され、かつ、本年度重複助成となられた場合には、助成をできない場合がありますのでご注意ください。

・過去助成研究テーマ検索 (<http://www.takanofoods.co.jp/company/foundation/>) タカノフーズ(株) HP 内

日本育種学会会員異動(2021.4.21~2021.10.20)

◇普通会員入会：長澤秀高（北海道）、石川和也、高瀬智敬、高橋重一（岩手県）、福井邦明、延原肇、谷口昇志、今瀬諒司、野坂亮仁、柴田静香、森山力（茨城県）、遠藤亮太（栃木県）、宇垣正志、齋藤彰宏（東京都）、菅野真麻（神奈川県）、渡辺脩斗（福井県）、中澤隆盛、市川悦子（長野県）、大橋里美（三重県）、新田みゆき（京都府）、小島昭夫（宮崎県）

◇学生会員入会：弓巾真白、檜原美樹、柏倉淳、早川諒、岩堀遼馬、永井麻美子（北海道）、室山龍児（青森県）、尾形圭介、伊藤輝俊（岩手県）、金あおい、武田信哉（宮城県）、梨木聡人、高野航太、神田大梧（茨城県）、黒木健（千葉県）、西山典秀、佐藤汰一、富岡雅矢、MARYENTI TETY、望月秀斗、周暢（東京都）、高橋賢多、松本大輝（神奈川県）、古辻ななみ、前門大貴、武田夏奈（新潟県）、宮下智貴、黛隆宏（福井県）、軽部晴、戸田楓香（長野県）、新美陽子（愛知県）、阿部貴史（三重県）、庄司穂弘、高間顕佑、蘇卓、吉岡俊輔（京都府）、河村凌（兵庫県）、加藤颯真（鳥取県）、泉谷真、栗原未結（岡山県）、稲田那菜、河田倫典（福岡県）、伊藤千夏（熊本県）、SHAH SHAMEEL（鹿児島県）

住所変更等

◇名誉会員：足立泰二（宮崎県）

◇普通会員：五十嵐秀成（北海道）、羽鹿牧太（岩手県）、藤野賢治、中村和弘、坂井真、佐藤宏之、小田俊介、福田善通、熊谷亨、高木恭子、加藤信、平田香里、提箸祥幸、DINH LAM（茨城県）、長峰司、前田英郎、春原英彦、藤田由美子、中込弘二（東京都）、金俊植（神奈川県）、岡田聡史（愛知県）、小倉真里奈（三重県）、吉田健太郎（京都府）、大田正次（大阪府）、田岡健一郎（兵庫県）、栗田学（岡山県）、高橋宙之、伊東栄作、黒木慎、林長生（福岡県）、村木正則（熊本県）、國吉大地（沖縄県）、嶋田玄太郎（ドイツ）

逝去

蓬原雄三（愛知県，名誉会員）

故人のご功績を偲び，謹んで哀悼の意を表します。

訂正

育種学研究第 23 卷 1 号の本会会報（93 頁）に記載され

た第 139 回講演会日本育種学会優秀発表賞の講演課題名に誤りがございましたので，下記の通り訂正いたします。

誤) **講演番号 415** : temperature sensitive hybridbreakdown1 はイネ品種間の交雑後代で雑種崩壊を引き起こす

正) **講演番号 415** : *temperature sensitive hybrid breakdown 1* はイネ品種間の交雑後代で雑種崩壊を引き起こす